

第26回社会保障審議会医療保険部会
(平成19年4月12日)

資料 3

全国健康保険協会の設立に向けた 準備状況について

全国健康保険協会の設立に向けて

- 政府管掌健康保険については、昨年 6 月の健康保険法改正により、平成 20 年 10 月に国から切り離した保険者(全国健康保険協会)を新たに設立することとなっており、昨年 11 月、設立委員を任命し、設立準備のための議論を開始したところ。
- 設立委員会においては、定款や事業計画、予算、職員の労働条件・採用基準等の策定、職員の採用の可否の決定等、協会の設立準備を行うこととなっている。

[開催経過]

- ・第 1 回(平成 18 年 11 月 14 日)……政府管掌健康保険の公法人化の概要、政府管掌健康保険の現状等
- ・第 2 回(平成 19 年 1 月 30 日)……社会保険庁における健康保険業務の移管に向けた検討・準備、
協会の理念・運営方針等
- ・第 3 回(平成 19 年 3 月 29 日)……社会保険庁改革の状況等、協会の理念・運営方針、組織人員等
- ・第 4 回(平成 19 年 5 月 22 日(予定))

全国健康保険協会の設立委員について

- 厚生労働大臣は、設立委員を命じて、定款の作成等の設立に関する事務を処理させる。
- 設立委員は、協会の職員の労働条件及び採用基準を作成する。社会保険庁からの職員の採用については、社会保険庁長官を通じて、募集を行う。

全国健康保険協会設立委員名簿

- 岩村 正彦 東京大学大学院法学政治学研究科教授
- 逢見 直人 UIゼンセン同盟参与
- 大塚 陸毅 東日本旅客鉄道(株)取締役会長
- 梶田 信一郎 内閣法制次長
- 加島 英俊 (株)加島建設会長(広島県商工会連合会会長)
- 川端 唯司 (株)たねや常勤監査役(全国社会保険委員会連合会理事)
- 古賀 伸明 日本労働組合総連合会事務局長
- 五嶋 耕太郎 (株)五島屋代表取締役会長(石川県中小企業団体中央会会長)
- 辻 哲夫 厚生労働事務次官
- ◎ 星野 進保 前総合研究開発機構客員研究員
- 山崎 春樹 千代田興業(株)総務課長(秋田県社会保険委員会連合会幹事)
- 山下 一平 (株)ヤマシタコーポレーション代表取締役社長

◎:委員長 ○:委員長代理
(五十音順、敬称略)

設立委員会における検討課題と検討スケジュール

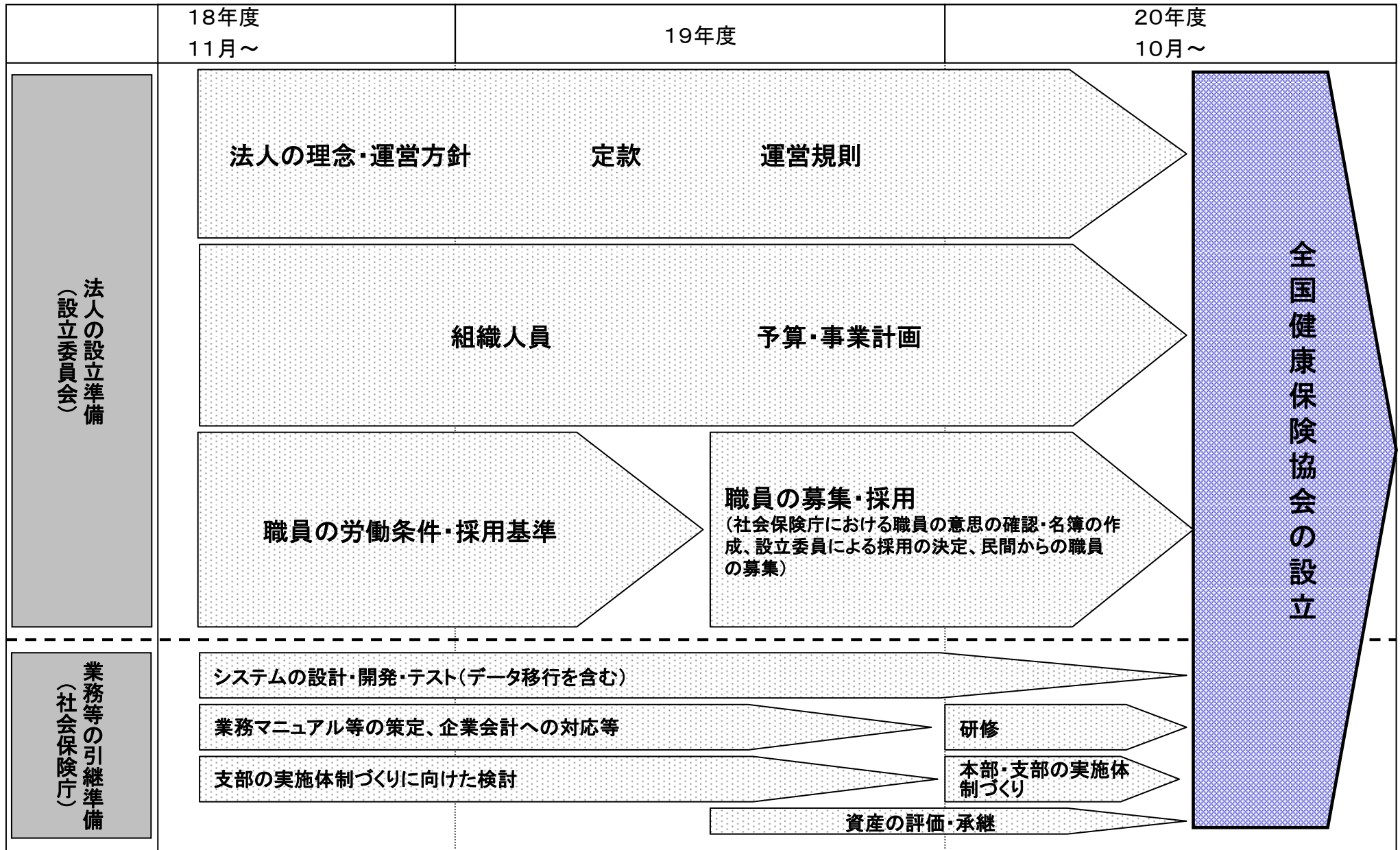
- 協会の発足の概ね 1 年前となる平成 19 年秋までを目途として、法人の理念・運営方針や組織人員の骨格、職員の採用基準・労働条件を固めることができるよう、検討を進める。

【主な検討事項】

- ・ 法人の理念、運営方針
- ・ 定款
- ・ 組織人員の骨格（平成 19 年夏頃を目途）
- ・ 職員の採用基準・労働条件の策定（平成 19 年秋頃を目途）
- ・ 職員の採用
- ・ 運営規則
- ・ 予算・事業計画
- ・ その他重要事項

※ 上記については平成 19 年度中を目途に策定を行い、平成 20 年 4 月以降は設立のための大臣認可等の手続きを行い、理事長となるべき者に引継ぎを実施。

全国健康保険協会の設立に向けてのスケジュールのイメージ



全国健康保険協会の設立に向けて

協会については、公法人化の趣旨を踏まえ、保険者としてのあるべき姿を志向し、事業主や被保険者の意見を反映した自主自律の運営のもと、被保険者の利益を実現できるよう、保険者機能の強化や業務の効率化等を進めていくという方向で検討していく必要があると考えられる。

達成すべき目標

- ・自主自律の運営の確保(被保険者等の意見の反映、説明責任等)
- ・保険者機能の発揮(生活習慣病の予防、医療費の適正化など被保険者の利益の実現)
- ・業務の効率化の推進(公法人化のメリットを活かした運営)
- ・安定的な財政運営(被用者保険の最後の受け皿)
- ・内部統制(ガバナンス)の確保
- ・公正な運営の確保(コンプライアンス・個人情報保護)

公法人化のメリット

- ・予算や定員に関する制度的な制約の縮小による機動的・弾力的な事業展開
- ・弾力的な人事システムや給与体系の導入
- ・都道府県単位の財政運営を活かした地域の実情に応じた保健事業の推進
- ・各都道府県における保険者間の連携強化 等

政府管掌健康保険の公法人化について

改革の視点

○ 都道府県単位の財政運営

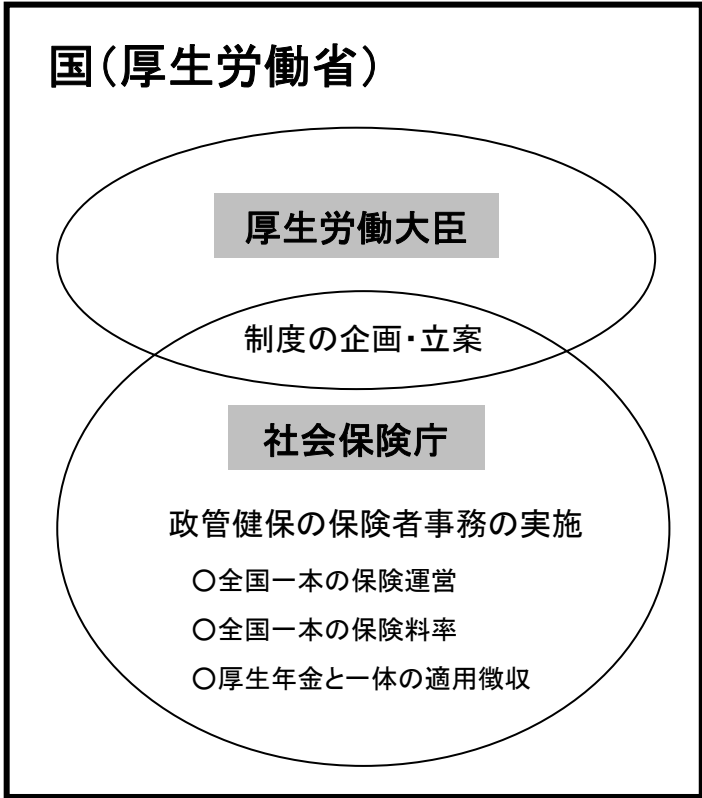
国と切り離れた保険者として全国健康保険協会を設立し、都道府県ごとに地域の医療費を反映した保険料率を設定するなど、都道府県単位の財政運営を基本とする。

○ 財政運営の安定化

被用者保険の最後の受け皿であることから、解散を認めない法人として政府により設立し、財政運営の安定化のために必要な措置を講ずる。

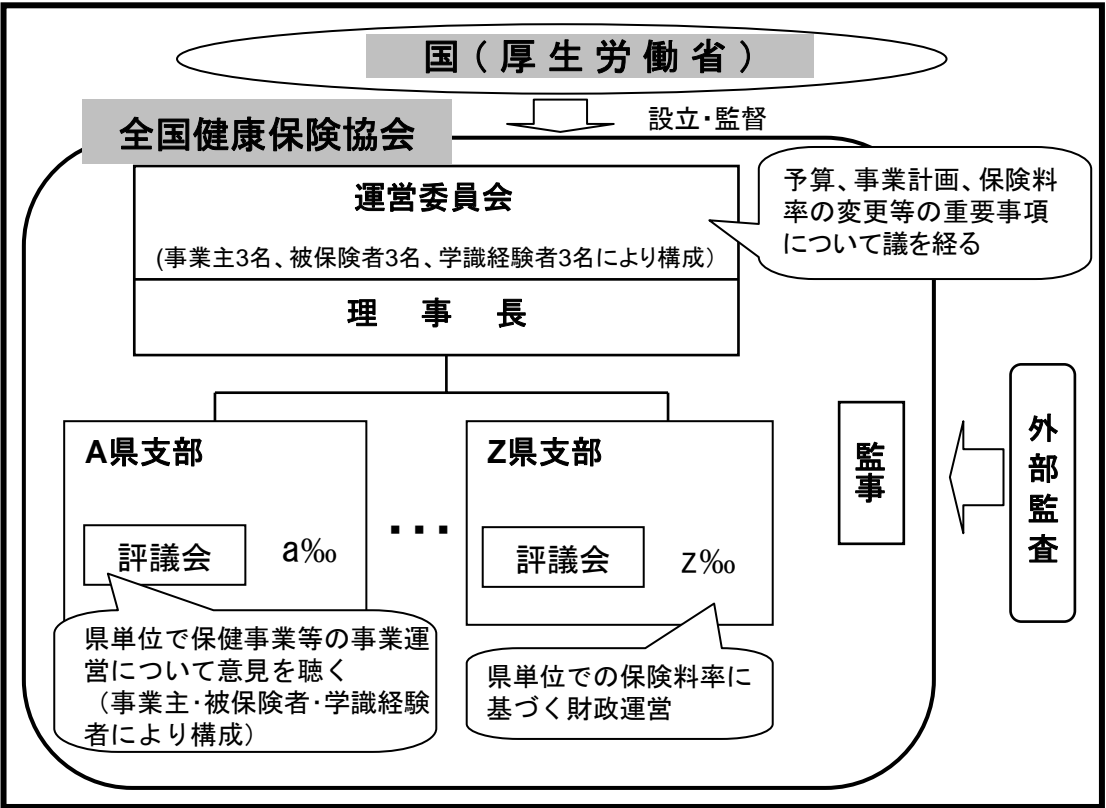
○ 自主・自律の保険運営

保険料を負担する被保険者等の意見を反映した自主自律の保険運営を確保するとともに、非公務員型の法人とし、業務の合理化・効率化を推進する。



保険者機能の発揮

- ・運営の自主性・自律性
- ・給付と負担の公平

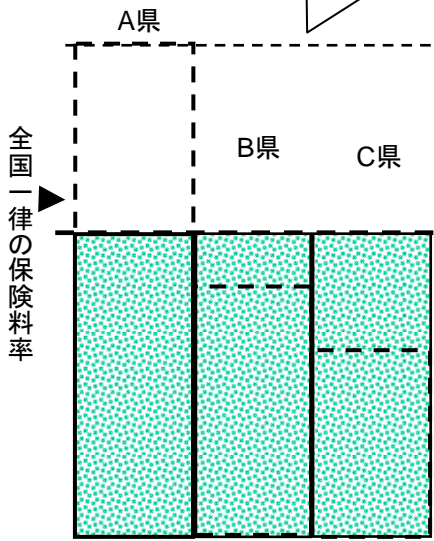


都道府県単位保険料率について

- 都道府県単位保険料率では、年齢構成の高い県ほど医療費が高く、保険料率が高くなり、また、所得水準の低い県ほど、同じ医療費でも保険料率が高くなることから、全国健康保険協会においては都道府県支部間で年齢調整・所得調整を行うこととなっている。
- 今後、施行に当たっては、都道府県単位保険料率の算定基準等を政省令等で定める必要がある。

全国一本の保険料率(現行)

都道府県ごとの医療費の水準にかかわらず保険料率は一律

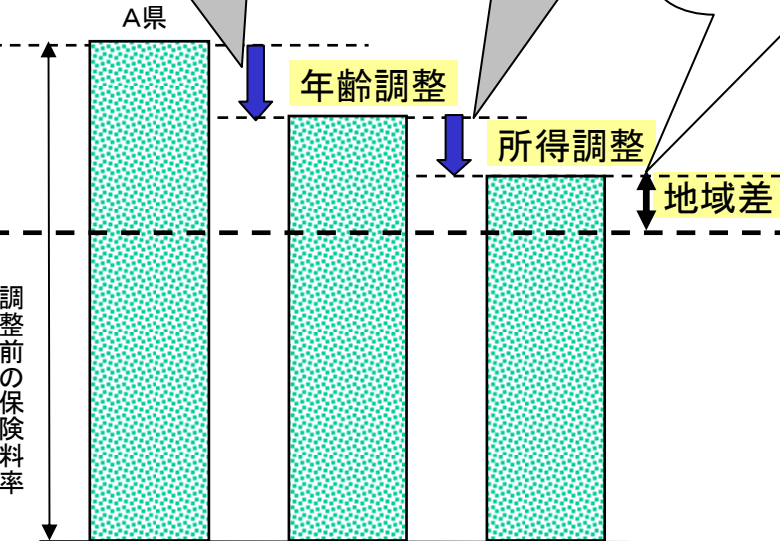


都道府県単位保険料率(改正後): 年齢構成が高く、所得水準の低いA県の例

年齢構成を政管の平均とした場合の医療費との差額を調整

所得水準を政管の平均とした場合の保険料収入額との差額を調整

年齢調整・所得調整の結果、都道府県ごとの保険料率は、医療費の地域差を反映した保険料率となる。



各都道府県の保健事業等に要する保険料分を合算

後期高齢者支援金など全国一律で賦課される保険料分を合算

最終的な保険料率

(※) 都道府県単位保険料率になることで、保険料率が大幅に上昇する場合には、**激変緩和措置**を講ずる。
 (※) 平成20年10月の協会の設立時においては従前の全国一律の保険料率を適用することとなっており、協会設立後1年以内に都道府県単位保険料率に移行することとなっている。

日本年金機構法案の概要 ～社会保険庁の廃止・解体と年金新法人の設立～

1. 年金新法人の組織等

- 名称 日本年金機構
- 役職員 非公務員、民間的な勤務条件
- 国の監督 厚生労働大臣が直接的に管理監督し、事業計画・予算を認可、業務改善命令等
- 設立 平成22年4月までにおいて政令で定める日（平成22年1月を予定）
同時に、社会保険庁を廃止

2. 国と新法人の役割

- 国は、公的年金に係る財政責任・管理運営責任
 - ・年金特別会計を備え、保険料徴収・年金の支払は国の歳入・歳出
 - ・年金手帳及び年金証書は、国（厚生労働大臣）の名義
- 法人は、厚生労働大臣から委任を受け、その直接的な監督下で、公的年金に係る一連の運營業務

3. 強制徴収の委任

- 保険料の滞納処分は、厚生労働大臣の一定の監督の下で、法人に委任
- 厚生労働大臣は、悪質な滞納者に対する滞納処分について必要があると認めるときは、法人からの申し出に基づき、滞納処分の権限を、財務大臣を通じて国税庁長官に委任

4. 民間へのアウトソーシングの推進（振り分けのための第三者機関）

- 次の事項について、学識経験者の意見を聞いた上で、政府が基本計画を閣議決定
 - ・新法人が自ら行う業務と委託する業務との区分その他の委託の推進についての基本的事項
 - ・法人の職員の採用についての基本的事項

5. 職員の採用（採否審査のための第三者機関）

- 法人の設立委員が、労働条件及び採用基準を提示し、職員を募集
- 設立委員は、人事管理の学識経験者の意見を聴いて、採否を決定

日本年金機構法案の概要

I. 趣旨

- 公的年金制度は、全国民の強制加入を前提に、世代間扶養と所得再分配を行う仕組みであり、安定的な運営のためには、国民の信頼に応えることができる事業運営体制が不可欠である。
- このため、社会保険庁を廃止し、厚生労働大臣が公的年金に係る財政責任・管理運営責任を担うこととする一方、新たに非公務員型の年金公法人を設置し、厚生労働大臣の直接的な監督の下で、一連の運営業務を担わせることとする。
- この年金公法人においては、
 - ・能力と実績に基づく職員人事の徹底
 - ・民間企業へのアウトソーシングの推進等により、サービスの向上及び効率的かつ効果的な業務遂行の実現を図る。

II. 法人の組織等

1. 名称

日本年金機構

2. 役員

- 理事長、副理事長、理事、監事を置く
- 理事長及び監事は、厚生労働大臣が任命
副理事長及び理事は、理事長が厚生労働大臣の認可を受けて任命

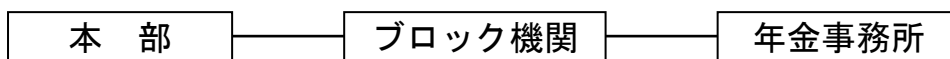
3. 理事会

- 法人の運営に係る重要事項を審議し、決定する。

4. 役職員の地位等

- 役職員は、非公務員とする。(刑法等の罰則の適用は、公務員とみなす。)
- 役職員又は役職員であった者には、秘密保持義務を課す。
- 役職員の報酬又は給与は、勤務成績等が考慮されるものでなければならない。
- 役職員は、保険料により運営される年金事業の意義を自覚し、強い責任感を持って、誠実かつ公正に職務を遂行する旨のサービスの誓約を行う。

5. 法人の事務所等



6. 資本金

政府出資（年金事務所の土地建物等を想定）

Ⅲ. 業務運営

1. 国と公法人の役割分担

○国は、公的年金に係る財政責任・管理運営責任を担う。

- ・年金特別会計を備え、保険料の徴収・年金の支払は、国の歳入・歳出
- ・年金手帳及び年金証書は、国（厚生労働大臣）の名義で発行

○法人は、厚生労働大臣から委任を受け、その直接的な監督の下で、公的年金に係る一連の運営業務（適用・徴収・記録管理・相談・裁定・給付等）を担う。

2. 業務運営の基本理念

○法人は、その業務運営に当たり、国民の意見を反映しつつ、サービスの質の向上を図るとともに、業務運営の効率化、公正性及び透明性の確保に努めなければならないこと等を定める。

3. 法人の業務

- 厚生年金保険法及び国民年金法の規定により法人が行うこととされた事務
- 健康保険法及び船員保険法の規定により法人が行うこととされた事務
（全国健康保険協会の管掌する健康保険及び船員保険に関する適用及び徴収）
- 児童手当法の規定により法人が行うこととされた拠出金の徴収に関する事務

4. 民間委託

- 法人は、厚生労働大臣の定める基準に従って、業務の一部を委託する。
- 委託を受けた者には、秘密保持義務を課す。

5. 業務方法書、年度計画 等

- 法人が業務方法書を作成し、厚生労働大臣が認可
- 年度計画（事業計画・予算）
 - ・法人が年度計画（事業計画・予算）を作成し、厚生労働大臣が認可
 - ・事業年度終了後、厚生労働大臣が実績を評価
- 中期目標・中期計画
 - ・厚生労働大臣が、3～5年の期間に法人が達成すべき目標を設定
 - ・法人が中期計画を策定し、厚生労働大臣が認可
 - ・中期目標期間の終了後、厚生労働大臣が実績を評価

6. 報告徴収、改善命令等

- 厚生労働大臣は、法人に対し、報告徴収、立入検査、業務改善命令、法令違反等の是正命令を行うことができる。

7. 財務及び会計

- 法人の会計は、企業会計原則
- 法人は、毎事業年度、財務諸表を作成し、厚生労働大臣の承認を受ける。
- 法人は、財務諸表、決算報告書等について、厚生労働大臣が選任する会計監査人の監査を受ける。
- 政府は、法人の業務に要する費用を交付するものとする。その際、当該交付金の財源の国庫負担又は保険料の別ごとの内訳及び当該内訳に対応した交付金の用途を明らかにするものとする。

8. 年金個人情報の利用及び提供の制限

- 年金個人情報については、年金事業の実施並びに全国健康保険協会による健康保険事業に関する事務、介護保険料等の特別徴収、他制度との併給調整等の事務を遂行する場合以外には、利用又は提供できないものとする。

9. 年金委員

- 厚生労働大臣は、年金事業に関する国民の理解を高めるための啓発を行い、被保険者等からの相談に応じる等の活動を行う年金委員を委嘱する。

10. 罰則

○守秘義務違反、業務改善命令違反等に対して、所要の罰則を定める。

IV. 法人の設立準備

(公布日施行)

1. 基本計画

○政府は、法人への業務の円滑な引継ぎを確保し、適正かつ効率的な運営を図るため、次の事項について基本計画を定める。(閣議決定)

- ・法人が自ら行う業務と民間へ委託する業務との区分、委託先の選定に係る基準その他の業務の委託の推進についての基本的な事項
- ・法人の設立に際して採用する職員の数その他の職員の採用についての基本的な事項

○政府は、基本計画を定めようとするときは、あらかじめ、専門的な学識又は実践的な能力を有し、中立の立場で公正な判断をすることができる学識経験者の意見を聴くものとする。(内閣官房の下の会合)

2. 設立委員

○厚生労働大臣は、法人の設立委員を命じて、法人の設立事務を処理させる。

3. 職員の採用

○設立委員は、法人の職員の労働条件及び採用基準を提示して、職員を募集する。

○社会保険庁長官は、社会保険庁の職員の意思を確認し、法人の職員となる意思を表示した者の中から、名簿を作成して設立委員に提出する。

○設立委員は、職員の採否を決定するに当たっては、人事管理に関する学識経験者からなる会議の意見を聴くものとする。

○設立委員から採用する旨の通知を受けた社会保険庁の職員は、法人の成立の時において、法人の職員として採用される。

(法人に採用されなかった社会保険庁の職員の転任、退職又は免職は、国家公務員法の定めるところによる。)

V. 関係法律の改正

1. 権限の委任等の規定整備（厚生年金保険法・国民年金法 等）

○社会保険庁長官が行うと定められている業務は、厚生労働大臣が行うことに改めるとともに、厚生労働大臣は、法人に権限の委任及び事務の委託をして行わせることとする。

2. 法人に強制徴収を行わせるための規定整備（厚生年金保険法・国民年金法 等）

○保険料の滞納処分は、厚生労働大臣から権限の委任を受け、法人において実施することとし、法人における滞納処分業務の公正性、客観性を担保するとともに、国の監督体制を十分に確保するために必要な措置を講じる。

- ・滞納処分についての厚生労働大臣の事前認可
- ・滞納処分の実施規程の策定及び厚生労働大臣の認可
- ・滞納処分の実施職員の任命について厚生労働大臣の認可

3. 強制徴収の国税庁への委任

○厚生労働大臣は、悪質な滞納者に対する滞納処分について必要があると認めるときは、法人からの申し出に基づき、政令で定めるところにより、保険料の滞納処分の権限を、財務大臣を通じて国税庁長官に委任できることとする。

4. その他

- 「社会保険庁」の廃止（厚生労働省設置法から削除）
- 保険医療機関等に対する指導・監査等の事務は、地方厚生局において実施するものとする。（平成20年10月1日施行）
- 以上のほか、関係各法に関し、社会保険庁の廃止及び年金公法人の設立に伴う所要の改正を行う。

VI. 施行期日等

- 施行期日は、平成22年4月1日までに政令で定める日（22年1月予定）
 - ・IVの法人の設立準備に関する規定は、公布日
 - ・Vの地方厚生局に係る規定は、平成20年10月1日
- 政府は、この法律の施行後3年を目途として、この法律の施行の状況、国民年金の保険料の納付の状況、機構における業務の効率化及び改善の状況等を勘案して、機構の組織及び業務の存続の必要性の有無を含めた在り方その他政府管掌年金事業の運営に関する全般的な検討を行い、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。